

18. 当科における単孔式胸腔鏡下手術の導入

獨協医科大学 埼玉医療センター 呼吸器外科
井上裕道, 須鴨耕平, 石川菜都実, 有本齊仁,
荏部陽子, 小林 哲, 松村輔二

【緒言】近年呼吸器外科の分野では, 従来の胸腔鏡下手術に加えてロボット支援手術, 更には一つの手術創からの単孔式胸腔鏡下手術 (uVATS) が広まり, 当科でも uVATS を 2020 年 2 月から開始した. 導入初期の周術期成績を従来からの多孔式胸腔鏡下手術 (mVATS) 施行群と uVATS 施行群について比較検討した.

【対象と方法】2019 年 1 月から 2020 年 10 月までに uVATS を行っている術者 2 名が施行した原発性肺癌に対する肺葉切除術 46 症例を対象とした. mVATS は 4 ポート対面式, uVATS は第 4 または第 5 肋間に 4 cm の皮膚切開を置いて施行した.

【結果】多孔群 32 例, 単孔群 14 例. 各項目の平均値 (多孔/単孔) は, 手術時間 ($205 \pm 46/211 \pm 37$ 分, $P=0.65$), 出血量 ($41 \pm 66/22 \pm 19$ ml, $P=0.15$), 術後ドレナージ期間 ($3.3 \pm 1.9/2.6 \pm 1.6$ 日, $P=0.26$), 術後在院日数 ($9.6 \pm 6.2/10.2 \pm 7.7$ 日, $P=0.81$), 合併症発生率 ($6 \pm 16.7\%/1 \pm 7.1\%$, $P=0.66$) であった.

【考察】mVATS では, 各器具の方向は別々であり干渉しない. 単一の孔から手術を行う uVATS は, 器具の向きが同一となり必ず干渉が発生する. そのため, 従来の胸腔鏡下手術では直線的であった器具を湾曲させ干渉を回避することで手術が可能となった. また肺の手術では, 検体を摘出する際に 4 cm 程度の手術創が必要となるため, uVATS は物理的に最小切開創での手術といえる.

uVATS 導入初期ではあるが, 検討項目で有意差なく, 従来までの mVATS と比較しても遜色のない結果であり, 初期の周術期成績としては十分満足のいくものと考えられた.

【結語】単孔群は開始間もないデータであるが, 多孔群と遜色のない周術期成績が見込め, 低侵襲性において有用なアプローチ法であることが示唆された.

19. 縦隔リンパ節転移を伴った非小細胞肺癌に対する導入療法後手術の治療成績

獨協医科大学 呼吸器外科学

井上 尚, 眞柄和史, 梅田翔太, 荒木 修,
前田寿美子, 千田雅之

N2 リンパ節転移を認める非小細胞肺癌の治療は議論の余地がある. 我々は N2 肺癌に対し導入療法 (化学±放射線) を行い, PD でなければ手術を行っている. 今回当院における N2 肺癌に対する導入療法の治療成績を検討した.

【対象・方法】2011 年 1 月～2018 年 12 月に当院で導入療法を施行した 41 例を対象. 2021 年 5 月に予後調査を施行. 全死による生存率を Kaplan-Meier 法で算出し, 群間比較を log-rank 法で施行.

【結果】平均年齢 66.0 歳で男性 38 例. 導入療法の内訳は化学放射線療法 22 例, 化学療法 8 例, 化学療法+血管新生阻害薬 6 例, EGFR-TK I5 例. 35 例が手術し (CR 1 例, PR 18 例, SD 16 例), 6 例が手術施行せず (PD 4 例, 間質性肺炎 1 例, 本人拒否 1 例). 全体の 5 年生存率 51.5%, 手術群で 60.2% であった. 術式は肺葉切除 32 例 (内気管支形成 9 例, 左房切除 1 例, 上大静脈切除 2 例), 中下葉切除 2 例, 肺全摘 1 例. Ef3-7 例, Ef2-15 例, EF1-12 例, EF0-1 例. 周術期合併症は 20 例で発生. 術死なし. 術後補助化学療法は 23 例で施行. 平均観察期間 1104 日で, 術後再発 18 例, 生存 24 例, 死亡 11 例 (癌死 6 例, 他病死 5 例). 単変量解析で術後病理病期や病理学的治療効果, 組織型, 年齢, 放射線治療の有無, 合併症について検討したがいずれも有意差を認めず. 術後補助化学療法のみが有意差を認め ($p=0.014$ HR 0.183 [95%CI: 0.048-0.705]), 術後補助療法施行群で予後良好 (3 年生存率: あり 89.1%, なし 40.4%).

【結語】当院における N2 肺癌に対する治療成績を検討し, 予後因子を検討した. 導入治療後手術非施行群は予後不良であった. 導入療法後手術施行群では術後補助療法施行群が予後良好であった.